

2013年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	静定構造力学Ⅱ及び演習						
科目区分	専門科目	単位数	3	開講時期	1年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)/必修科目(建築コース)/選択科目(デザインコース)						
担当者	津田和明・平松晃						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静定ばりと静定ラーメン構造の力学的特徴を把握し、応力図を描くことができる。(A6,B1)</li> <li>・応力度の算定方法を身に付け、組み合わせ応力の算出ができる。(A6,B1)</li> <li>・各種の断面定数のもつ意味を理解し、断面定数の計算ができる。(A6,B1)</li> </ul>						
日程と内容	9/20 導入講義 10/4 応力の意味・QM・片持梁応力図 10/5 単純梁応力図 10/11 区間ごとに求める応力 10/18 静定門形ラーメン応力図 10/25 斜材をもつ左右対称・3ヒンジラーメン応力図 11/1 臨時試験と解答解説 11/8 垂直応力度とせん断応力度 11/15 曲げ応力度算定・縁応力度 11/22 せん断応力度分布と断面形状 11/29 組み合わせ応力度と断面の核 12/6 図芯と断面一次モーメント 12/13 断面二次モーメントと平行軸の定理 12/20 断面主二次モーメントと主軸、極二次モーメント 1/10 定期試験 1/24 まとめ						
成績評価基準	定期試験	30%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	10%					
	演習	30%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・静定ばりと静定ラーメン構造の力学的特徴を把握し、応力図を描くことができる。(A6,B1): ほぼ達成できた。</li> <li>・応力度の算定方法を身に付け、組み合わせ応力の算出ができる。(A6,B1): ほぼ達成できた。</li> <li>・各種の断面定数のもつ意味を理解し、断面定数の計算ができる。(A6,B1): ほぼ達成できた。</li> </ul>						
反省点	徐々に、構造力学の授業についてこれない生徒が増大している。試験で比較的良好な成績を取っている生徒でも、基本を理解している生徒は僅かで、大半の生徒は、解き方だけを覚えているにすぎない。生徒は、皆、良い成績を取るためだけに勉強しているようで、そのような生徒に対する授業方法を考えていく必要がある。						
来年度の計画	生徒の反応を見ながら、授業の力点を置くところ(理論か演習か)を検討していきたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価で8.3点であるが、本当に理解している学生は僅かであると思われる。構造への興味を深め、理解力を高めるよう努力したい。						
履修登録者数	108名	定期試験受験者数	97名	合格者数	78名	合格率	80%